きょうむそくほう【ダイジェスト】

No.729
2026年11月13日
東海旅客鉄道労働組合
https://www.jrtu.jp

「ハートフルカンパニービジョン　⇒２０２７」の取り組み推進！

Japan Railway Tokai Workers UNION / Japan Railway Tokai Workers UNION / Japan Railway Tokai Workers UNION

「年末手当」交渉　第3回団体交渉

満　額　妥　結　!!

組合員の努力と成果に報いる回答を引き出す!!

Japan Railway Tokai Workers UNION / Japan Railway Tokai Workers UNION / Japan Railway Tokai Workers UNION

11月13日、申第５号「2026年度年末手当に関する申し入れ」に基づく団体交渉を開催し、会社から**「3.1箇月」支給**との**満額回答が示された。**

会社からは、「2026年度第２四半期決算が労務費等の上昇により減益となったものの、大阪・関西万博の反動が予想される中、多くのお客様にご利用いただいた結果、**過去最高益となった昨年度に次ぐ利益水準であったことを踏まえ、社員の皆さんの努力に報いるため、決定した。**」との見解が示された。

今回の会社回答は、**組合員の努力と成果に報いるとともに、これまで築き上げてきた健全で強固な労使関係を踏まえ「将来につなぐ共同宣言」の趣旨を体現する、満額回答であると受け止め、席上妥結した。**

基準内賃金の

3.1 箇月

12月10日以降準備でき次第支給

交渉を力強く支えていただいた全ての組合員に感謝申し上げます！

※議論内容の詳細については、後日発行の「ぎょうむそくほう」をご確認ください。

【会社回答内容】

1　支給月数は、3.1 箇月分とする。

2　支給日は、12 月 10 日以降準備でき次第とする。

（参考）35 歳ポイント諸元
年末手当支給額：1,082,800 円

【会社側発言要旨】

社員の皆さんへ（2026年度年末手当について）

■今回の年末手当は、安定的支給ベースである2.9箇月分に0.2箇月分を上積みし、「3.1箇月分」を支給します。

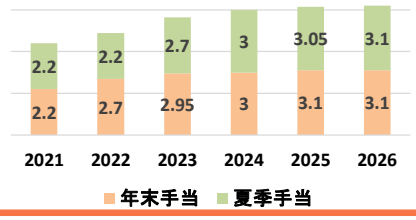
■これは、2026年度第２四半期決算が労務費等の上昇により減益となったものの、大阪・関西万博の反動が予想される中、多くのお客様にご利用いただいた結果、過去最高益となった昨年度に次ぐ利益水準であったことを踏まえ、社員の皆さんの努力に報いるため、決定したものです。

■期末手当の支給月数については、各期の利益などを踏まえ決定しますが、今後も、物価高騰が続き、厳しい経営環境が見込まれます。こうした環境下においても、社員一人ひとりが能力を高め、求められる役割に応じて力強く業務に取り組み、会社全体でさらなる成果を出していくことを強く期待しています。

２０２６年度年末手当

1　支給月数は、３．１箇月分とする。
2　支給日は、１２月１０日以降準備でき次第とする。

※ベースアップを反映した結果、35歳モデル賃金の支給額は「1,082,800円」となり、年末手当としては過去最高額



【妥結にあたっての中央執行委員会見解】

ＪＲ東海ユニオンは、2026 年度年末手当交渉について、申第５号により「支給月数 3.1 箇月、支給日 12 月 10 日」とする要求を申し入れ、10 月 22 日の第１回団体交渉以降、満額回答にこだわり議論を積み重ねてきた。

組合員は、日本の大動脈及び地域公共交通という極めて重要なライフラインを支え、名古屋地区の地域医療等を担うという使命の下、懸命な努力を積み重ね、昼夜を問わず最前線で職務を全うしてきた。具体的には、会社が掲げる「経営体力の再強化」や「ありたい姿」を実現すべく、「収益の拡大」に向けた営業施策の創出・展開やグループ一体となった新規事業への挑戦、「業務改革」に資する技術開発、三世代の鉄道事業運営を見据えた不断の生産性向上、地域と連携した中央新幹線建設計画の着実な推進、安全安心な地域医療の提供に多大な労力を注いできた。また、熱中症リスクが高まる酷暑や、台風・線状降水帯による豪雨にあっても、組合員は互いに声を掛け合い、細心の注意を払いながら安全・安定輸送を守り抜いてきた。さらに、要員不足を訴える声が多くの職場で挙がる中、休日勤務にも前向きに

※議論内容の詳細については、後日発行の「ぎょうむそくほう」をご確認ください。

応じ、過去最高となる 491 本の列車を設定したシルバーウィークにおいても輸送力を確保してきた。加えて、中東情勢の影響下での資材調達、アジア競技大会・アジアパラ競技大会をはじめとするイベント対応、そして在来線を中心とした関係人口・交流人口の創出に向けた地域との連携にも積極的に取り組み、社業を力強く支えてきた。

その結果、大阪・関西万博の特需がなくなり減収・減益が見込まれていた中、2026 年度第２四半期決算では、予想を覆して新幹線・在来線ともに前年同期を上回り、運輸収入は過去最高となった。組合員の前向きさとひたむきさがこの成果を生み出したことは言うまでもない。

団体交渉では、交渉委員一人ひとりが、全職場総対話行動や檄布等を通じて集めた組合員の声を基に、業績の背景にある組合員の頑張りや工夫を具体的に主張してきた。会社からは単体業績の減益やインフレによる費用増への懸念が示されたものの、「組合員のこの間の尽力により昨年度に近い水準の利益を確保できたこと」「組合員の頑張り・貢献に報いること」「それらに対する会社のメッセージを回答として示すこと」については、労使の認識が一致した。

そして本日、会社から「支給月数 3.1 箇月、支給日 12 月 10 日以降準備でき次第」との満額回答を引き出した。回答にあたり、会社からは、上半期の利益が過去最高益となった昨年度に次ぐ水準となったことを踏まえ、人材が最大の経営資源であるとの考えの下、組合員の努力に報いるため満額で応える旨が示された。中央執行委員会は、今次回答について、会社が組合員の頑張りとユニオンの主張を真正面から受け止め、今後の更なる奮起に期待するという明確なメッセージであるとともに、「将来につなぐ共同宣言」の趣旨を体現するものと判断し、席上妥結した。

激動の時代は続く。日本経済におけるインフレ基調は今後も継続することが見込まれ、経営環境は予断を許さない。こうした中にあっても、安全・安定輸送の確保を大前提に、2027 年度中に予定されているのぞみ料金・グリーン料金の見直しやのぞみ 13 本ダイヤの拡大、その先ののぞみ 14 本ダイヤの実現をはじめ、各種施策を着実に推進していかなければならない。また、中央新幹線は開業時期の公表を控え、プロジェクトのフェーズが変わる局面を迎えようとしている。いかなる状況にあっても、鉄道産業と地域医療が人の力で成り立っていることに変わりはない。私たちは、今次回答に込められたメッセージを力に変えながら、「将来にわたる会社の発展と組合員・家族の幸せ実現」をめざし、一人ひとりが自らの手で社業を支え、一丸となってこの難局を乗り越えていこう。

交渉にあたり、想いの詰まった檄布・檄紙・檄ＦＡＸ等を通じて力強く支えていただいたすべての組合員、関係者に感謝申し上げる。満額回答は、組合員一人ひとりの想いを結集した組織の力で勝ち取ったものである。私たちは、健全で強固な労使関係を軸に、人材が最大の経営資源であるとの会社の姿勢が具体的な回答として示されるよう、組合員の頑張りに応じた適正な成果配分を求め続ける。組合員が誇りとやりがいを持ち、安心して意欲高く長く働き続けられる環境を実現するために、今次交渉の到達点を礎に、当面する２０２７春季生活闘争をはじめとする労使交渉・協議に全力で取り組む決意を表明し、中央執行委員会見解とする。

2026 年 11 月 13 日
ＪＲ東海ユニオン
中央執行委員会

以　上

※議論内容の詳細については、後日発行の「ぎょうむそくほう」をご確認ください。